

事所々に多くいふ事なり、和漢同日の談なり。

〔懷子伽戀^十〕はだへにそはゞいかに若衆

素仙

楊枝共扇共身はつかはれて

〔狗狢集^{十一}〕ひる狐かやまたは狸か

貞徳

眞白にけはふ女の高楊枝。

きれいなりにける芋のはの露

慶友

我妻の楊枝をつかふ口の中

〔狗狢集^{十七}〕一句ニ付句百五十句

徳元

有馬山湯には楊枝をつけ置て

〔用捨箱^上〕餅屋の看板

花紋日京保十四年印本
言石撰

白糸餅やせうまに楊枝のむちや峠茶屋

〔諸艶大鑑^三〕一言聞身行邊

道行づくしの淨瑠利本略○中喜三郎が琢砂をたしなみ略○下

〔嬉遊笑覽^二〕服二中みかき砂略○中喜三郎が琢砂といふ事、諸艶大鑑に見えたるは、難波にて其頃の

聞えたるものと見ゆ。

○按ズルニ、琢砂ハ即チ齒磨粉ナリ、而シテ正徳ノ頃ニハ、難波ニテ喜三郎ト云フモノ、作レル齒磨粉ヲ珍重シタリト見エタリ、

〔嬉遊笑覽^二〕服二中世話盡、白雪や山のはぎはのみがき砂、楊枝につらく似たる谷口、食籠を狩場の末に開かせて、

琢砂
齒藥